

第七十三回
帝國議會
貴族院

硫酸アンモニア増産及配給統制法案特別委員會議事速記録第一號

付託議案
硫酸アンモニア増産及配給統制法案
臨時農村負債處理法案

委員氏名

- | | | |
|------|--------|-----|
| 委員長 | 公爵鷹司 | 信輔君 |
| 副委員長 | 伯爵後藤 | 一藏君 |
| | 子爵高橋 | 是賢君 |
| | 男爵松田 | 正之君 |
| | 男爵園田 | 武彦君 |
| | 菊池 | 恭三君 |
| | 稻畑勝太郎君 | |
| | 野村茂久馬君 | |
| | 岩崎 | 清行君 |

昭和十三年三月二十日(日曜日)午後二時
三十七分開會

○委員長(公爵鷹司信輔君) ソレデハ委員
會ヲ開會致シマス、先ヅ初メニ政府委員ヨ
リ本案ノ御説明ヲ願ヒタイト存ジマス

○政府委員(助川啓四郎君) 硫酸「アンモ
ニア」増産及配給統制法案ノ立案ノ趣旨ニ
付キマシテハ、本會議ニ於テ大臣カラ申述
ベタ通りデアリマスガ、茲ニハ其ノ内容ニ
付キマシテ、御説明申上ゲタイト存ジマス、
我が國ニ於ケル硫酸「アンモニア」ノ消費ハ極

メテ著シク増加ノ趨勢ニアリマシテ、最近
ニ於テハ年々二十餘萬「トン」ノ増加ヲ示シ其
ノ一箇年消費額ハ約一億五千萬圓ニ上リ、
販賣肥料總消費額ノ約三分ノ一ヲ占メテ居ル
ノデアリマス、而モ斯クノ如キ消費増加ノ
趨勢ハ、今後ニ於キマシテモ相當ノ年數繼
續スルモノト考ヘネバナライノデアリマ
ス、然ルニ硫酸「アンモニア」ノ國內生産ヲ見
マスルニ、年々相當増大シテ居リマスガ、
遺憾ナガラ需要ノ増加ニ應ズルコトヲ得マ
セヌノデ、毎年海外ヨリ二十萬「トン」内外
ノ輸入ヲ要スルノデアリマシテ、「トン」當
リ百圓ト致シマシテモ約二千萬圓ノ海外支
拂ヲ餘儀ナクセラレテ居ル實情デアリマス、
從ツテ將來ニ於ケル消費額ノ増加ニ應ジ得
ベキ十分ナル數量ノ供給ヲ確保致シ、又有
事ノ際ニ於ケル軍需資材ヘノ轉換ノ餘力ヲ
モ保有セシメマスヤウ、速カニ且適確ニ硫酸
「アンモニア」生産ノ擴充ヲ圖リマスルコト
ハ誠ニ緊要ト考フルノデアリマス、仍テ本
法實施行後五箇年間ニ硫酸「アンモニア」製
造設備ノ新設又ハ増設ヲ致シマスモノニ對
シ、其ノ設備ヲ以テ營ム硫酸「アンモニア」
製造事業ニ付、事業開始ノ年ヨリ五箇年間

所得稅、營業收益稅及地方稅ヲ免除シ、又
右事業ニ要スル器具機械ノ輸入稅ヲ免除シ
更ニ右事業ハ土地收用法ニ依リ土地ヲ使用
又ハ收用シ得ル事業トシテ、同法ヲ適用シ、
又資金調達ノ便宜ヲ得シムル爲、右事業ヲ
行フ株式會社ニハ、株金全額拂込前ノ増資
ヲ認メ、及ビ社債發行限度ヲ拂込株金額ノ
二倍トスル等ノ保護助成ヲ與フルコトヲ致
シマスト共ニ、必要ニ應ジ日本硫酸株式會
社又ハ硫酸「アンモニア」製造業者ニ對シ、製
造設備ノ新設増設及改良ヲ命ジ得ルコトト
シ、右命令ニ依リ損失ヲ生ジタル時ハ、政
府ハ之ヲ補償スルコトヲ致シタノデアリマ
ス、次ニ配給統制ノ問題ニ付キマシテハ、硫
酸「アンモニア」ノ肥料中ニ於ケル重要性ニ
鑑ミ、其ノ配給統制機構ヲ確立致シマスコ
トガ極メテ緊要デアリマスノデ、日本硫酸
株式會社ナル特殊會社ヲ設立セシメ、硫酸
「アンモニア」配給統制事業ヲ完全ニ遂行セ
シムルト共ニ、民間ニ於ケル増産ノ進捗狀
況ニ照シ、必要アル場合ニ於テハ硫酸「ア
ンモニア」ノ製造、其ノ他供給確立上必要
ナル事業ヲモ行ハシムルコトヲ致シタノデ
アリマス、本會社ノ資本金ハ差當リ一千萬

圓ト致シマスガ、資本ノ増加及社債ノ募集
ニ付商法ノ特例ヲ設ケテ、資金調達ノ便宜
ヲ與ヘ、特ニ社債ニ付キマシテハ、其ノ元
利ノ支拂ヲ政府ニ於テ保證スルコトヲ得ル
コトヲ致シマシタ、又本會社ノ特殊ナル重
要性ニ鑑ミ、上述ノ如キ保護特典ヲ與ヘマ
スト共ニ、適當ナル指導監督ヲ行フコトヲ
必要ト認メマシテ、業務執行上重要ナル事
項ハ政府ノ認可ヲ受ケシメ、又其ノ利益配
當ヲ制限シ、更ニ業務ニ關シ監督上必要ナ
ル命令ヲ爲スコト等ノ規定ヲ設ケマシテ、
以テ本會社ノ運営ニ遺憾無キヲ期シタ次第
デアリマス、更ニ硫酸「アンモニア」製造業
者等ハ其ノ製造又ハ取扱ニ係ル硫酸「アン
モニア」ヲ本會社ニ對シ賣渡スベキ旨ノ規
定ヲ設ケマシタガ、此ノ事ハ現ニ臨時肥料
配給統制法第一條第三項ノ規定ニ依リ、命
令ヲ出シテ居リマスモノヲ取入レタノデア
リマス、尙日本硫酸株式會社ノ設立ニ付キ
マシテハ、現在ノ硫酸販賣株式會社ガ一定
ノ手續ヲ經テ、之ヲ日本硫酸株式會社トナ
スコトヲ得ルコトヲ致シテ居リマス、以上
本案ノ大體ヲ御説明申上ゲマシタガ、何卒
御審議ノ上御可決アラムコトヲ希望致シマ

ス、臨時農村負債處理法案ノ提出理由ニ付キマシテハ、大體本會議ニ於テ申上ゲタ通リデアリマシテ、其ノ趣旨ハ今次支那事變ニ際シマシテ、多數ノ應召者ヲ出シ、而モ戰死傷者モ少クナイ農山漁村ニ於テ、戰死傷者遺家族ニ付其ノ經濟更生ヲ圖ル爲ニ、大體從來ノ農村負債整理制度ノ例ニ準ジツ、尙相當擴充セル新制度ニ依リ、此ノ際急速ニ負債整理ヲ爲サシムルノ途ヲ開カムトスルコトニアアルデアリマシテ、以下本法案ノ内容ノ主ナルモノニ付、二三御説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一點ハ未ダ負債整理組合ノ設立ヲ見ルニ至ラナイ農山漁村ニ於キマシテモ、戰死傷者遺家族ノ負債整理ヲ爲サシムル途ヲ開クコトトシタノデアリマス、即チ從來ノ制度ニ依リマス、負債整理ヲ致シマス爲ニハ、原則トシテ負債整理組合ヲ設立シナケレバナラナイノデアリマスガ、負債整理組合設立ノ實情ニ徴シマシテ、全國ノ農山漁村ニ普ク組合ノ設立ヲ見ルニ至リマス迄ニハ、尙若干ノ時日ヲ要スルモノト認メラレマスルシ、一方戰死傷者遺家族ノ負債整理ニ付キマシテハ、急速ニ之ヲ行フ必要ガアリマスノデ、是等戰死傷者遺家族ノ負債整理ニ付テハ、必ズシモ負債整理組合ノ設立ヲ

要シナイコトト致シタノデアリマス、第二點ハ、道府縣ニ臨時負債處理委員會ヲ設置シ、從來ノ制度ニ依ル市町村負債整理委員會ニ代ツテ、債務ノ條件緩和ノ斡旋等ヲ爲サシムルコトトシタノデアリマス、即チ之ニ付キマシテモ負債整理組合ト同様、市町村負債整理委員會設置ノ現況ニ鑑ミマシテ、全國ニ其ノ設置ノ普及ヲ見ル迄ニハ、尙若干ノ時日ト經費ヲ要スルモノト認メラレマスノデ、道府縣單位ノ負債處理委員會ヲ設クルコトトシ、更ニ此ノ委員會ヲシテ、其ノ機能ヲ十分發揮セシムル爲、若干ノ權能ヲ與フルコトト致シタノデアリマス、第三點ハ、本法ニ依リマシテ負債處理計畫ノ樹立セラレマシタ戰死傷者遺家族ニ對シテハ、市町村、産業組合中央金庫及融資銀行ヨリ負債處理ノ爲必要ナル資金ノ特別融通ヲ爲サシムルコトト致シタノデアリマスガ、其ノ融通ニ依ツテ市町村、産業組合中央金庫及融資銀行ノ受ケタル損失ニ付キマシテハ、之ニ對シ損失補償ヲ致スコトトシタノデアリマス、而シテ其ノ補償ノ割合ヲ從來ノ制度ニ依ル割合ノソレノ二倍ニ引上グルコトト致シタノデアリマスガ、是ハ從來ノ制度ニ於キマシテモ、農山漁村ノ實情ニ鑑ミ、相當ノ損失補償ヲ爲シ來ツタノデアリ

マスガ、戰死傷者遺家族ハ一層經濟的彈力ニ乏シイモノト認メラレマスノデ、其ノ補償ノ割合ヲ引上ゲ、以テ資金融通ノ圓滑ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、以上本法案ニ依ル負債處理制度ノ從來ノ制度ト異ナル主ナル點ニ付御説明申上ゲタノデアリマスガ、何卒御審議ノ上速カニ御可決アラムコトヲ希望致ス次第デアリマス、今回提案致シマシタ硫酸「アンモニア」増産及配給統制法案ニ付、御審議ヲ願フニ當リマシテ、肥料界ノ現狀ヲ申上ゲテ、御審議ノ御參考ニ供シタイト思ヒマス、御承知ノ如ク、我が國ノ農業經營方法ハ、我が國ノ國情カラ致シマシテ、今後益々集約的トナルコトハ必至ノ勢デアリマシテ、肥料ノ消費高ガ年々増加シテ居ルノハ、誠ニ故ナキニアラズト思フノデアリマス、左様致シマシテ、販賣肥料ノ消費額ハ、昭和十一年度ニ於テハ帝國全體、約四億五千萬圓ノ巨額ニ上ツテ居リマシテ、其ノ内容ヲ檢討シテ見マスルニ、二ツノ特徴ヲ持ツテ居ルコトヲ見逃スコトハ出來ナイノデアリマス、其ノ一ツハ販賣肥料ノ性質ガ漸次有機質カラ無機質ヘ轉換シツ、アルコトデアリマシテ、其ノ最モ顯著ナ例ハ大豆粕ノ消費額ガ減少シテ、硫酸「アンモニア」石灰窒素ノ消費額ガ増大シタ

ノデアリマス、硫酸「アンモニア」ノ消費額ガ急増致シマシタノハ、窒素肥料需要ノ自然増ノ外ニ、今申上ゲタヤウニ大豆粕カラ硫酸ヘノ轉換ガ加ツタ結果ト見ラレルノデアリマス、次ニハ販賣肥料消費總額中窒素肥料ガ金額ニ於テ七八割ヲ占メテ居ルコトデアリマシテ、是ハ我が國ノ農業生産ニハ肥料ノ中デモ窒素肥料ヲ最モ多量ニ必要トスル事實ヲ示シテ居ルモノト思フノデアリマス、此ノ重要肥料ノ需給關係ニ付キマシテ其ノ概要ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一ニハ硫酸デアリマスガ、昭和十一年ノ統計ニ依リマス、國內ノ販賣肥料總消費額ハ約四億五千萬圓デアリマシテ、其ノ中硫酸ハ約一億五千萬圓、總消費額ノ三分ノ一ヲ占メテ居ルノデアリマス、販賣肥料中最モ重要ナ地位ニアルノデアリマス、之ガ需給關係並價格如何ハ硫酸自體ノ問題トシテ重要、デアアルバカリデナク、他ノ肥料ニ及ス影響モ輕視出來ナイノデアリマス、而シテ硫酸ノ需要ハ昭和九年肥料年度ニハ、肥料年度ハ御承知ノ通り八月一日カラ翌年ノ七月三十一日迄デアリマスガ、昭和九肥料年度ハ約百十七萬二千「トン」、昭和十肥料年度ニ約百三十五萬九千「トン」、昭和十一肥料年度ニ約百六十四萬五千「トン」ト云フヤウ

ニ、年々増加ノ趨勢ニアリマシテ、未ダ停止スル所ヲ知ラナイノデアリマス、之ニ對シ生産モ年々増加シテ居リマスガ、未ダ自給自足ノ域ニ至ラナイデ、年々相當數量ノ輸入ヲ見ツ、アリマス、本肥料年度ニ於ケル需給關係ハ、消費見込額ガ百八十九萬「トン」バカリニ對シ、國內生産見込額ガ大體百四十五萬「トン」、之ニ滿洲カラ入ル數量十八九萬「トン」ヲ加ヘマシテモ、約二十萬「トン」ノ外安ヲ輸入セナケレバナラナイ次第デアリマス、右二十萬「トン」中、既ニ其ノ過半ハ輸入済デ、残りニ付キマシテモ其ノ輸入ハ豫定通り進捗シ得ル見込デアリマス、硫酸ニ付キマシテハ供給ニ支障ヲ來スヤウナ心配ガナイ狀況ニアル次第デアリマス、次ニ石灰窒素デアリマスガ、石灰窒素ハ最も經濟的ナ窒素肥料トシテ最近漸ク消費者ノ認識ガ高マリ、需要ガ増加シツ、アルノデアリマス、其ノ國內總消費額ハ昭和十肥料年度ニ於キマシテ約二十萬「トン」、昭和十一肥料年度ニ於キマシテ約二十五萬「トン」ニ達シマシタガ、本肥料年度ニ於キマシテハ供給額ガ著シク増加致シマシテ、約三十八萬「トン」餘ニ上ル見込デアリマシテ、翌年ヘノ繰越額ヲ相當見積リマシテモ、三十萬「トン」餘ノ供給力ガアリ

マスカラ、尙一層其ノ普及獎勵ニ努メタイト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ過磷酸石灰デアリマスガ、過磷酸石灰ノ原料デアアル燐礦石ハ、御承知ノ通りニ需要總額ノ大部分ガ海外カラノ輸入ニ俟タナケレバナラナイ實情ニアルノデアリマス、左様致シマシテ、過磷酸石灰ノ工場裸生産費ノ約八割ハ燐礦石ト硫化礦ノ原料費デアルト云フ事情カラ致シマシテ、是等ノ原料問題ガ極メテ重要ナノデアリマシテ、昨年來爲替關係、船賃關係等ノ爲ニ燐礦石ノ價格ガ急騰致シ、又硫化礦ノ價格モ亦非常ニ暴騰致シマシテ、過磷酸ノ市價ガ昂騰致シタ次第デアリマス、本年ニ於ケル燐礦石ノ輸入ニ付キマシテハ、爲替等ノ事情ニ依リ稍、窮屈トナル關係上、輸入業者ノ間ニ於テ又過磷酸製造業者ノ間ニ於キマシテ、燐礦石ノ入手ニ當リ無益ノ競争ヲ致シマスコトハ、肥料ノ供給上甚ダ遺憾ナコトデアリマスノデ、輸入業者ヲシテ「プール」ヲ組織セシメテ、統制アル買付ヲ爲サシムルコトト致シタノデアリマス、又過磷酸製造業者ニ對シテハ、自治的ニ内外産燐ノ割當ヲ決定セシメタ次第デアリマス、昭和十三年度ニ於ケル過磷酸石灰ノ供給ハ、大體ニ於キマシテ昭和十一年程度ノ數量トナル見込デアリマス、

昭和十二年ニ比シマスレバ、稍、減少致シマスノデ、合理的ニ消費ノ調整ヲ圖リマスヤウ措置致シテ居ル次第デアリマス、次ニ加里鹽デアリマスガ、加里鹽ノ國內生産ハ歐米ノ如キ加里鹽ノ資源ナキ爲ニ、副産物トシテ一箇年千「トン」内外ヲ産スルニ過ギナイノデアリマス、殆ド全部ハ輸入ニ俟タナケレバナラナイ次第デアリマス、加里鹽ノ供給ハ右ノ如キ事情デアリマスガ、其ノ需要ハ最近ニ至リマシテ著シク増加致シマシテ、昭和十一年ニハ十五六萬「トン」、昭和十二年ニハ二十四五萬「トン」ノ輸入ヲ見タノデアリマス、由來我が國ニ於ケル加里ノ給源ハ販賣肥料ニ依ルモノヨリ、自給肥料、特ニ堆厩肥及草木灰ニ依ルモノガ數倍多イト云フ事情デアリマシテ、自給肥料ノ増産ニ依リマシテ加里ノ供給ヲ増加スル可能性ノアルコトニ付テハ、十分留意ヲ要スルノデアリマス、左様致シマシテ昭和十三年ノ加里鹽ノ輸入ニ付キマシテハ、爲替等ノ事情ニ依リ稍、窮屈トナル關係上、其ノ供給ハ大體ニ於テ昭和十一年程度トナル見込デアリマスガ、格別大ナル支障ヲ生ゼザルモノト觀測シテ居ルノデアリマス、次ニ植物油類デアリマスガ、植物油類中ノ大宗デアアル大豆油粕ハコト數年來年々其ノ

輸入額ヲ減ジテ居リマシテ、昨年ノ輸入高ハ約六十萬「トン」デアアルノデアリマス、棉實油粕ハ約八萬「トン」程度主トシテ上海方面カラ輸入セラレテ居リマシタガ、今回ノ中支地方ノ戰亂ノ爲輸入ガ殆ド杜絶シテ居ルノデアリマス、茶種油粕ハ約二萬「トン」程度上海方面カラ輸入セラレテ居リマシタガ、是モ亦棉實油粕ト同ジ運命ニ置カレテ居ルノデアリマス、英領印度カラ入ルモノ一萬「トン」見當ニ付テハ、輸入關係ハ以前ト變リガナイノデアリマス、以上最近ノ肥料事情ニ付キマシテ其ノ大要ヲ申上ゲマシテ、御參考ニ供シタ次第デアリマス

○委員長(公爵鷹司信輔君) ソレデハ此ノ兩案ニ關スル參考資料デモ御望ミノ方ガゴザイマシタラ、御申出ヲ願ヒマス……、今直チニゴザイマセヌヤウデシタラ、又其ノ都度御申出ヲ願ヒマス、本日ハ此ノ程度ヲ散會致シマシテ、明後日十時カラ開會致シマス、デハ是デ散會致シマス

午後二時三分散會

出席者左ノ如シ

委員長 公爵鷹司 信輔君
副委員長 伯爵後藤 一藏君
委員 子爵高橋 是賢君

男爵松田 正之君

菊池 恭三君

稻畑勝太郎君

政府委員

農林參與官 助川啓四郎君

農林書記官 寺田 省一君

商工省統制局長 黒田 鴻五君

昭和十三年三月二十三日印刷

昭和十三年三月二十四日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局